

社会資本整備による アクセス性向上の効果 ～港湾利用にみる道路整備の効果～

2006.4
北陸建設経済研究会

はじめに

北陸地域の港湾は順次整備が進められているが、他の社会資本も同時に整備してアクセス性を高めることが、当該港湾の利用価値を高め、競争力の向上につながると思われる。本分析では、港湾の利用実態の変化から周辺の道路整備の効果を探るとともに、2007年度に予定されている東海北陸自動車道全通の効果とその活用の方策を検討した。

1. 分析にあたって

本分析において分析対象とした港湾とその選定条件は、以下のとおりである。港湾の位置と道路の整備状況は、図1のとおりである。

・新潟港、直江津港、伏木富山港、金沢港、敦賀港
(選定条件)

- (1) 取扱貨物量等の統計データが整理されており、経年比較が可能であること。
- (2) 高規格幹線道路^{*}(高速道路と一般道の自動車専用道)と地域高規格道路^{*}が、対象港湾の周辺で開通していること。

※地域高規格道路：

60～80km/h以上の速度で移動できる自動車専用道路およびそれに準ずる機能を持つ道路。



図1 対象港湾と道路整備